

新篠津交通 輸送の安全に関する情報

【 令和6年評価・令和7年目標 】

当社は以下の内容で取組を推進し、安全安定輸送の確保を図っています。

1 輸送の安全に関する基本的な方針

社長は、輸送の安全の確保及び関係法令遵守が最も重要であり、事業運営の根幹であることを深く認識し、現場の声に真摯に耳を傾け現場の状況を十分に踏まえつつ、社員に対し関係法令遵守が最も重要であるという意識を徹底させ、

【 輸送の安全確保を図り、安全・安心なバスを目指します。 】

輸送の安全に関する計画の策定・実行・チェック・改善を確実に実施し不断に見直すことにより、全社員が一丸となって絶えず輸送の安全性の向上に努めます。また、安全性に関する情報については、積極的に公表いたします。

2 輸送の安全に関する達成状況及び目標

重点目標

『 人身事故ゼロの継続 』

(1) 令和6年達成状況

| | |
|-----------------|-----|
| ・死亡事故・重大事故 | 0 件 |
| ・車内事故 | 0 件 |
| ・飲酒運転 | 0 件 |
| ・物損事故（軽微なものを含む） | 0 件 |

(2) 令和7年度目標

| | |
|-----------------|-------|
| ・死亡事故・重大事故 | 0 件 |
| ・車内事故 | 0 件 |
| ・飲酒運転 | 0 件 |
| ・物損事故（軽微なものを含む） | 5 件以下 |

3 自動車事故報告規則第2条に規定する事故に関する統計

令和6年度 事故報告規則第2条に基づく報告内容

| 項 目 | 件 数 |
|--|-----|
| 自動車が転覆し、転落し、火災を起こし、又は踏切において鉄道車両と衝突し若しくは接触したもの | 0 件 |
| 死者又は重傷者を生じたもの | 0 件 |
| 操縦装置又は乗降口の扉を開閉する操作装置の不適切な操作により、旅客に障害が生じたもの | 0 件 |
| 運転者の疾病により、事業用自動車の運転を継続することができなくなったもの | 0 件 |
| 自動車の装置の故障により、自動車が運行できなくなったもの | 0 件 |
| 前各号に掲げるもののほか、自動車事故の発生の防止を図るために国土交通大臣が特に必要と認めて報告を指示したもの | 0 件 |
| 合 計 | 0 件 |

4 輸送の安全のために講じた措置及び講じようとする措置

ドライブレコーダーの導入

貸切におけるドライブレコーダーの映像による指導・監督が義務化となったことから、貸切全車両にドライブレコーダー装備し、また乗合にも装備し、記録映像を活用して指導・監督の更なる充実を図っております。

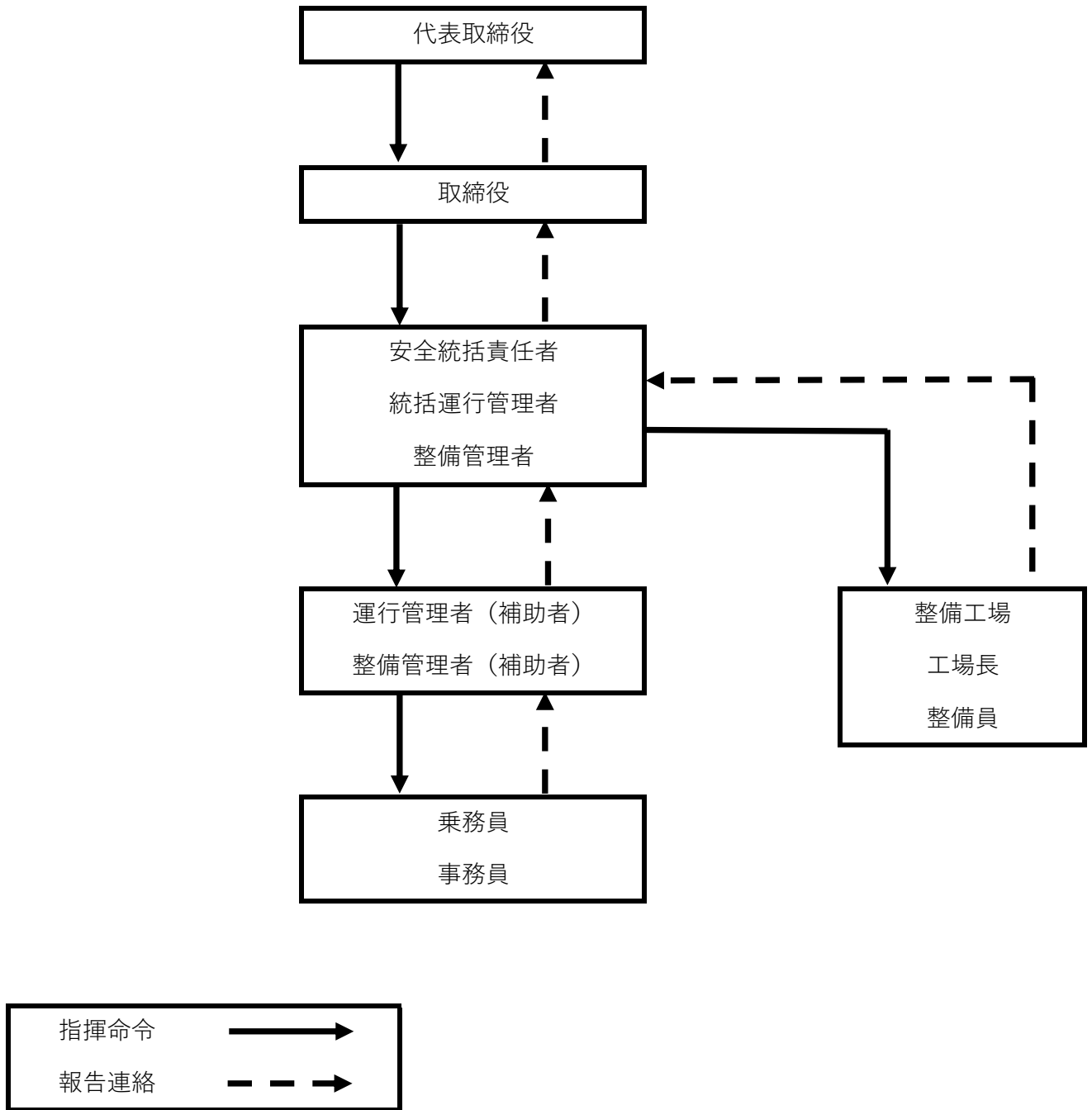
デジタルタコグラフによる安全運転の推進

貸切バス全車両にデジタルタコグラフを備え付け、運行中における速度超過・急加速・急減速・エンジン回転・アイドリング等の情報をもとに適時、乗務員指導することで、安全運転の意識向上を図っております。また、車両との通信により車両現在地・走行ルート・運行状況・現地の天候等を把握し、安全運行が遂行できるよう努めております。

高性能アルコールチェッカー導入

会社設置機器及び宿泊用持出し機器は測定者が不正ができないように、測定状況を写真撮影ができる機器を導入致しました。

5 輸送の安全に係る情報の伝達体制その他の組織体制



※社長は、安全統括責任者が病気等不在の場合は、代行を任命する。

6 輸送の安全に関する教育及び研修の実施状況

令和6年 事故防止等の取組計画・実施表

| 月 | 社員教育実施状況 | 外部運動講習等実施状況 |
|----|-----------------|---|
| 10 | ・乗務員安全教育 | ・運行管理者一般講習2名受講 |
| 11 | ・乗務員安全教育 | ・冬の交通安全運動（11/13～22） |
| 12 | ・乗務員安全教育、事故安全教育 | ・年末年始輸送安全総点検（12/10～1/10） |
| 1 | ・乗務員安全教育 | |
| 2 | ・乗務員安全教育 | |
| 3 | ・乗務員安全教育 | |
| 4 | ・乗務員安全教育 | ・春の交通安全運動（4/11～15） |
| 5 | ・乗務員安全教育、事故安全教育 | |
| 6 | ・乗務員安全教育、事故安全教育 | |
| 7 | ・乗務員安全教育 | ・セーフティラリーへの参加（7月～） ・夏の交通安全運動（7/13～22） ・飲酒運転根絶の日（7/13） |
| 8 | ・乗務員安全教育 | |
| 9 | ・乗務員安全教育 | ・秋の交通安全運動（9/21～30） ・運行管理者一般講習1名受講 |

7 輸送の安全に係る内部監査の結果並びにそれに基づき講じた措置及び講じようとする措置

・令和6年9月下旬に輸送の安全に関する内部監査を実施致しました。監査内容については、【輸送の安全確保を図り、安全・安心なバスを目指します。】の安全方針に基づき安全管理体制が効果的に実施・維持され機能しているか、また、安全管理に関する関係法令や社内規定などのルールが遵守され徹底が図られているかについて、当該書類等を確認致しました。その結果、運輸安全マネジメントの実施状況について、概ね適正であることを確認しました。

8 安全管理規定

・別紙

9 安全統括管理者

氏名 今田 義春

役職 取締役

10 貸切バス初任運転教育

・別紙（対象者1名）

新篠津交通 安全管理規定

目次

第一章 総則

第二章 輸送の安全を確保するための事業の運営の方針等

第三章 輸送の安全を確保するための事業の実施及びその管理体制

第四章 輸送の安全を確保するための事業の実施及びその管理方法

第一章 総則

(目的)

第一条 この規定（以下「本規定」という。）は、道路運送法（以下「法」という。）第二十二條の二の規定に基づき、輸送の安全を確保するために遵守すべき事項を定め、もって輸送の安全性の向上を図ることを目的とする。

(適用の範囲)

第二条 本規定は、当社の乗合バス及び貸切バスに係る業務活動に適用する。

第二章 輸送の安全を確保するための事業の運営の方針等

(輸送の安全に関する基本方針)

第三条 社長は、輸送の安全の確保が事業経営の根幹であることを深く認識し、社内において輸送の安全の確保に主導的な役割を果たす。また、現場における安全に関する声に真摯に耳を傾けるなど現場の状況を十分に踏まえつつ、社員に対し輸送の安全確保が最も重要であるという意識を徹底させる。

- 2 輸送の安全に関する計画の策定、実行、チェック、改善（Plan Do Check Act）を確実に実施し、安全対策を不断に見直すことにより、全社員が一丸となって業務を遂行することにより、絶えず輸送の安全性の向上に努める。また、輸送の安全に関する情報については、積極的に公表する。

(輸送の安全に関する重点施策)

第四条 前条の輸送の安全に関する方針に基づき、次に掲げる事項を実施する。

- 一 輸送の安全確保が最も重要であるという意識を徹底し、関係法令及び安全管理規定に定められた事項を遵守すること。
- 二 輸送の安全に係る費用支出及び投資を積極的かつ効率的に行うよう努めること。

- 三 輸送の安全に関する内部監査を行い、必要な是正措置又は予防措置を講じること。
- 四 輸送の安全に関する情報の連絡体制を確立し、社内において必要な情報を伝達、共有すること。
- 五 輸送の安全に関する教育及び研修に関する具体的な計画を策定し、これを適確に実施すること。

(輸送の安全に関する目標)

第五条 前条に掲げる方針に基づき、目標を策定する。

(輸送の安全に関する計画)

第六条 前条に掲げる目標を達成し、輸送の安全に関する重点施策に応じて、輸送の安全を確保するために必要な計画を作成する。

第三章 輸送の安全を確保するための事業の実施及びその管理体制

(社長等の責務)

第七条 社長は、輸送の安全確保に関する最終的な責任を有する。

- 2 経営トップは、輸送の安全の確保に関し、予算の確保、体制の構築等必要な措置を講じる。
- 3 経営トップは、輸送の安全の確保に関し、安全統括管理者の意見を尊重する。
- 4 経営トップは、輸送の安全を確保するための業務の実績及び管理の状況が適切かどうかを常に確認し、必要な改善を行う。

(社内組織)

第八条 次に掲げる者を選任し、輸送の安全確保について責任ある体制を構築し、輸送の安全を確保するための企業統治を適確に行う。

- 一 安全統括管理者
- 二 運行管理者
- 三 整備管理者
- 四 その他必要な管理者

- 2 輸送の安全に関する組織体制及び指揮命令系統については、安全統括管理者が病気等を理由に本社に不在である場合や重大な事故、災害等に対応する場合も含め、別に定める組織図（別紙1）による。

(安全統括管理者の選任及び解任)

第九条 取締役のうち、旅客自動車運送事業規則第四十七条の五に規定する要件を満たす者の中から安全統括管理者を選任する。

- 2 安全統括管理者が次の各号のいずれかに該当することとなったときは、当該管理者を解任する。
 - 一 国土交通大臣の解任命令が出されたとき。
 - 二 身体の故障その他のやむを得ない事由により職務を引き続き行うことが困難になったとき。
 - 三 関係法令の違反又は輸送の安全の確保の状況に関する確認を怠る等により、安全統括管理者がその職務を引き続き行うことが輸送の安全の確保に支障を及ぼすおそれがあると認められるとき。

(安全統括管理者の責務)

第十条 安全統括管理者は、次に掲げる責務を有する。

- 一 全社員に対し、関係法令等の遵守と輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を徹底すること。
- 二 輸送の安全確保に関し、その実施及び管理の体制を確立、維持すること。
- 三 輸送の安全に関する方針、重点施策、目標及び計画を誠実に実施すること。
- 四 輸送の安全に関する報告連絡体制を構築し、社員に対し周知を図ること。
- 五 輸送の安全確保の状況について、定期的に、かつ必要に応じて、随時、内部監査を行い、経営トップに報告すること。
- 六 経営トップ等に対し、輸送の安全の確保に関し、必要な改善に関する意見を述べる等必要な改善の措置を講じること。
- 七 運行管理が適正に行われるよう、運行管理者を統括管理すること。
- 八 整備管理が適正に行われるよう、整備管理者を統括管理すること。
- 九 輸送の安全を確保するため、社員に対して必要な教育又は研修を行うこと。
- 十 その他の輸送の安全の確保に関する統括管理を行うこと。

第四章 輸送の安全を確保するための事業の実施及びその管理の方法

(輸送の安全に関する重点施策の実施)

第十一条 輸送の安全に関する基本的な方針に基づき、輸送の安全に関する目標を達成するべく、輸送の安全に関する計画に従い、輸送の安全に関する重点施策を着実に実施する。

(輸送の安全に関する情報の共有及び伝達)

第十二条 経営トップと現場や運行管理と運転者等との双方向の意思疎通を十分に行う

ことにより、輸送の安全に関する情報が適時適切に社内において伝達され、共有されるように努める。また、安全性を損なうような事態を発見した場合には、看過したり、隠蔽したりせず、直ちに関係者に伝え、適切な対処策を講じる。

(事故、災害等に関する報告連絡体制)

第十三条 事故、災害等が発生した場合における当該事故、災害等に関する報告連絡体制は別に定めるところによる。(別紙1)

- 2 事故、災害等に関する報告が、安全統括管理者、経営トップ又は社内の必要な部局等に速やかに伝達されるように努める。
- 3 安全統括管理者は、社内において報告連絡体制の周知を図るとともに、第一項の報告連絡体制が十分に機能し、事故、災害等が発生した後の対応が円滑に進むよう必要な支持を行う。
- 4 自動車事故報告規則(昭和二十六年運輸省令第百四号)に定める事故、災害等があった場合は、報告規則の規定に基づき、国土交通大臣へ必要な報告又は届出を行う。

(輸送の安全に関する教育及び研修)

第十四条 第五条の輸送に関する目標を達成するため、必要となる人材育成のための教育及び研修に関する具体的な計画を策定し、着実に実施する。

(輸送の安全に関する内部監査)

第十五条 安全統括管理者は、自ら又は安全統括管理者が指名する者を実施責任者として、安全管理マネジメントの実施状況等を点検するため、少なくとも一年に一回以上、適切な時期を定めて輸送の安全に関する内部監査を実施する。

また、重大な事故、災害等が発生した場合又は、同種の事故、災害等が繰り返し発生した場合その他特に必要と認められた場合には、緊急に輸送の安全に関する内部監査を実施する

- 2 安全統括管理者は、前項の内部監査が終了した場合はその結果を、改善すべき事項が認められた場合はその内容を、速やかに、経営トップに報告するとともに、輸送の安全の確保のために必要な方策を検討し、必要に応じ、当面必要となる緊急の是正措置又は予防措置を講じる。

(輸送の安全に関する業務の改善)

第十六条 安全統括管理者から事故、災害等に関する報告又は前項の内部監査の結果や改善すべき事項の報告があった場合若しくは輸送の安全の確保のために必要と認める場合には、輸送の安全の確保のために必要な改善に関する方策を検

討し、是正措置又は予防措置を講じる。

- 2 悪質な法令違反等により重大な事故を起こした場合は、安全対策全般又は必要な事項において現在よりもさらに高度の安全の確保のための措置を講じる。

(情報の公開)

第十七条 輸送の安全に関する基本的な方針、輸送の安全に関する目標及び当該目標の達成状況、自動車事故報告規則第二条に規定する事故に関する統計、安全管理規定、輸送の安全のために講じた措置及び講じようとする措置、輸送の安全に係る情報の伝達体制及びその他の組織体制、輸送の安全に関する教育及び研修の実施状況、輸送の安全に関する内部監査の結果並びにそれに基づき講じた措置及び講じようとする措置、安全統括管理者に係る情報について、毎事業年度の経過後百日以内に外部に対して公表する。

- 2 事故発生後における再発防止策等、行政処分後に輸送の安全確保のために講じた改善状況について国土交通省に報告した場合には、速やかに外部に公表する。

(輸送の安全に関する記録の管理等)

第十八条 本規定は、業務の実態に応じ、定期的に及び適時適切に見直しを行う。

- 2 輸送の安全に関する事業運営上の方針の作成に当たっての会議の議事録、報告連絡体制、事故、災害等の報告、安全統括管理者の指示、内部監査の結果、経営トップに報告した是正措置又は予防措置等を記録し、これを適切に保存する。
- 3 前項に掲げる情報その他の輸送の安全に関する情報に関する記録及び保存の方法は別に定める。

平成25年12月 2日制定

貸切バス初任者教習 対象者1名 ・ 指導教育者1名

| 日付 | 運行内容 | 指導内容 | 教習時間：3時間35分 |
|------------|--|---|-------------|
| 2025/10/18 | 車庫 ～ 自治センター ～ ゆめみ野JAショップ ～ 江別火葬場 ～ 順誓寺 ～ 岩見沢初任パークスキー場 ～ 萩野山スキー場 ～ 車庫 | ①各施設出入口、配車乗降場所確認 ②危険・注意箇所の指導 | |
| 日付 | 運行内容 | 指導内容 | 教習時間：6時間20分 |
| 2025/12/4 | 車庫 ～ 札幌ビートル園 ～ JR札幌北口 ～ 円山動物園正面玄関 ～ 大倉山ジャンプ ～ 小林峠経由 ～ 豊滝除雪センター ～ 定山溪温泉街 ～ 札幌市内中心部 ～ 丘珠空港 ～ 当別道の駅 ～ 車庫 | ①各施設出入口、配車乗降場所確認 ②危険・注意箇所の指導 ③道幅が狭い峠走行の指導 | |
| 日付 | 運行内容 | 指導内容 | 教習時間：6時間35分 |
| 2025/12/5 | 車庫 ～ マイ道の駅 ～ 新千歳空港～道の駅ウナイ ～ 白老ウポイ（徳寿KANTO、マーズ 経由）～白老温泉 ～ 登別時代村～登別地獄谷（温泉街経由）～苫小牧海の駅ぶらっと～道の駅あびら～車庫 | ①各施設出入口、配車乗降場所確認 ②危険・注意箇所の指導 ③道幅が狭い道路走行の指導 | |
| 日付 | 運行内容 | 指導内容 | 教習時間：7時間00分 |
| 2025/12/11 | 車庫 ～ 当別道の駅 ～ （銭函IC～小樽IC） ～ 小樽北一バスP ～ 余市宇宙記念館 ～ ウイスキー工場～ 京極道の駅 ～ ルツリリゾートホテル ～ 中山峠経由 ～ 豊滝除雪センター ～ 車庫 | ①各施設出入口、配車乗降場所確認 ②危険・注意箇所の指導 ③峠走行時の適切な排気ブレーキ操作・シフトダウンの指導 ④高速道路走行時の注意事項 | |
| 日付 | 運行内容 | 指導内容 | 教習時間：7時間45分 |
| 2025/12/12 | 車庫 ～ 豊滝除雪センター ～ 中山峠経由 ～ ルスト道の駅 ～ サロ展望台 ～ 洞爺湖温泉 ～ 昭和新山 ～ 北湯沢温泉 ～ きのか王国 ～ （美笛峠経由） ～ 千歳道の駅 ～ 車庫 | ①各施設出入口、配車乗降場所確認 ②危険・注意箇所の指導 ③峠走行時の適切な排気ブレーキ操作・シフトダウンの指導 | |

総合教習時間：31時間15分

| 日付 | 指導事項 | 指導内容 | 座学時間 |
|--------|---------------------------------|--|-----------------------------|
| 10月1日 | ①事業用自動車の安全な運転に関する基本的事項 | 1、バスの運転の安全、乗客の安全を確保する為に遵守すべきこと 2、バス事業における社会的役割やバス事故が社会に与える影響が大きいことなど説明し、運行するうえでの最優先事項は安全であること 3、バスを運転する心構えなど | 11:00～ 13:00 (2時間00分) |
| 10月9日 | ②事業自動車の構造上と日常点検の方法 | 1、バスの基本的な構造を説明し日常点検における見るべきポイントなど 2、緊急時を想定した非常口から開閉脱出からの避難までの一連の流れなど 3、雪道での運転において重要なチェーン脱着方法を確認 | 11:00～ 13:00 (2時間00分) |
| 11月28日 | ③運行の安全及び旅客を確保するための留意すべき事項 | 1、乗車中の乗客の安全を確保するために留意すべき事項（シートベルトなど） 2、乗客が乗降するときの安全な場所を確保するために留意すべき事項 3、運行経路及び交通の状況などの確認方法 | 10:00～ 11:00 (1時間00分) |
| 12月16日 | ④危険の予測及び回避並びに緊急時における対応方法 | 1、危険の予測及び回避並びに緊急時における対応方法 2、交通事故に関わる運転者の生理的及び心理的要因とこれらの対処方法 | 9:00～ 16:30 (6時間30分) |
| | ⑤安全の向上を図るための装置を備える事業自動車の適正な運転方法 | 1、安全性の向上を図るための装置を備えるバスの適正な運転方法など 2、運転者の運転適性に応じた安全運転方法など | |
| | ⑥ドライブレコーダーの記録を利用した運転特性の把握と是正 | 1、運転教習後、指導者と共にドライブレコーダーの映像を確認。教習中に受けた指導点を、様々な角度の映像を見ながら確認し、より安全な操作など | |

※ 座学指導日：10月1日、10月9日、11月28日、12月16日 （12月16日座学研修終了合格）

※ 実技指導日：10月18日、12月4日、12月5日、12月11日、12月12日 （12月12日実技最終見極め合格）

合計時間

11時間30分